

【個別施策 1】 産業の持続的な発展に向けた支援



目指す姿(案)

新宿の多様な産業が社会経済環境の変化に対応しながら活力を維持し、事業活動における新たな価値の創出や雇用の拡大につながっています。地域資源や多様な人材を活かし、地域課題を解決する事業など新たな挑戦が生まれています。こうした産業の力が、地域経済の持続的な発展を支えています。



現状課題(案)

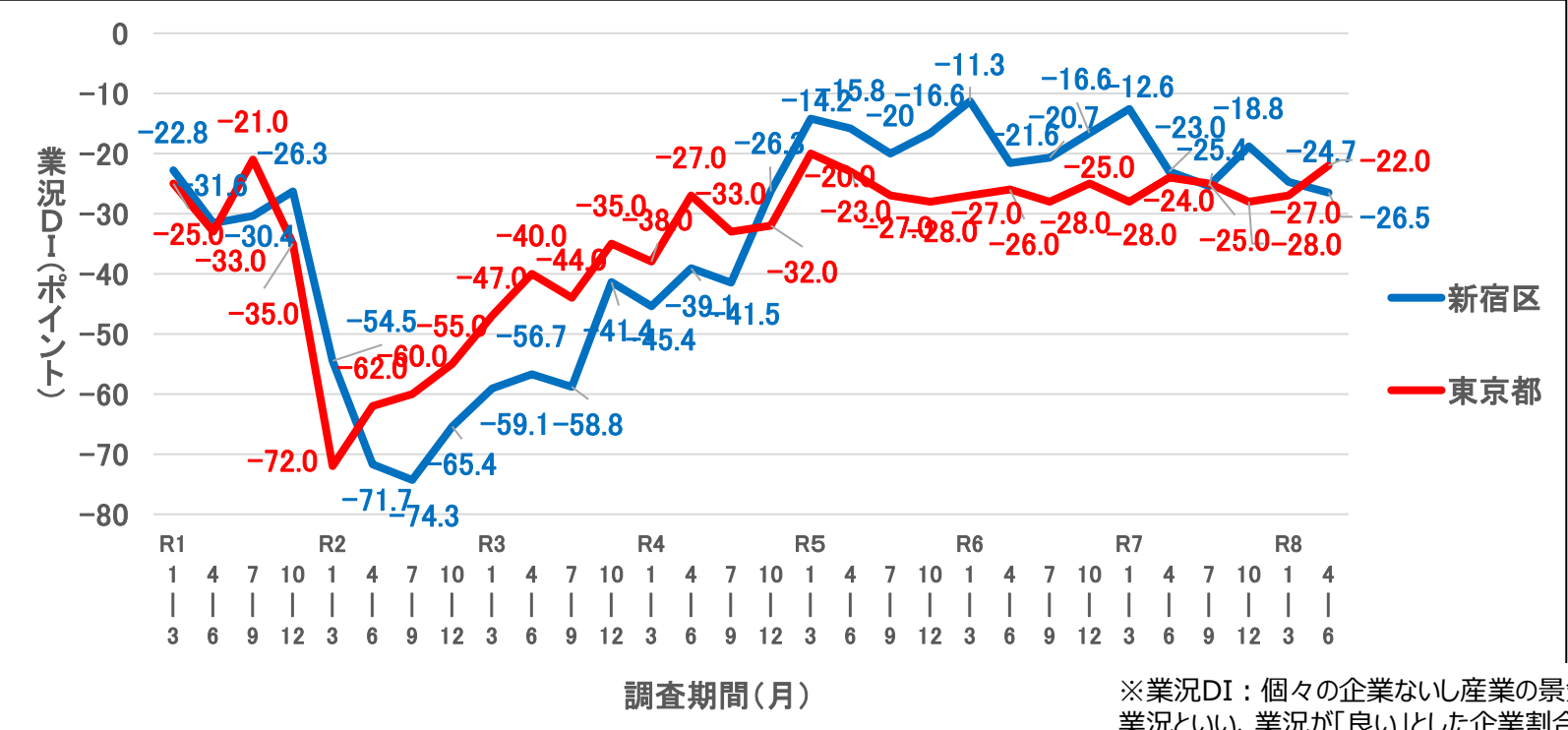
視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	事業集積と開業活力は高い一方、経営環境は厳しく、経営の安定化や人手不足が課題。	資料6-2 社会経済環境変化に係る調査(P48, 53)、資料6-3 基礎的データに係る調査(P23, 24)、区データ
専門・現場	物価高や人手不足、事業承継への対応に加え、支援施策の長期的な効果の検証が課題。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P9)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P11, 15)、資料7-6 既設審議会からのご意見について(P12)
生活者・個人	交通や買い物の利便性、都心への近接性などの強みを活かし、起業や中小企業の事業活動の支援が課題。	資料7-4 インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P16,P35)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P33,P34)
職員	中小企業の経営力強化、事業承継、創業支援、人材確保等の総合的支援が論点。	個別施策検証結果等

物価高騰、働き方の変化、デジタル化の進展など、地域経済を取り巻く環境は激しく変化しています。また、新宿区内には多様な中小企業が集積しており、高い開業率を背景に新たな事業も生まれています。

こうした社会経済情勢、地域特性を踏まえ、都市の活力を維持するためには、地域産業の担い手である中小企業の経営を強化していく必要があります。また、創業を取り巻く環境が変化する中、スモールビジネスに加え、スタートアップなど多様な事業形態に対応した支援のあり方が求められています。区内の優れた商品や技術、地域資源の魅力を広く発信し、販路拡大や新たなビジネス機会の創出につなげていくことも必要です。

区内中小企業の人手不足に対しては、更なる人材確保につなげ、求職者の就労ニーズに対応していく必要があります。

(図表1 業況DIの推移(全体))



【新宿区「中小企業の景況」より】

※業況DI：個々の企業ないし産業の景気状況を業況といい、業況が「良い」とした企業割合から「悪い」とした企業割合を差し引いたものを業況DIという。

(図表2 区内新設法人数)

年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
件数	3,045	3,369	3,781	3,828	3,501

【新宿区調査より】

(図表3 開業率)

新宿区	7.58%
全国平均	4.59%
23区平均	6.80%

【平成28年・令和3年の経済センサス活動調査より】

【個別施策 1】 産業の持続的な発展に向けた支援

施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	厳しい経営環境を踏まえ、経営基盤の強化、新たな価値創造、人材確保に取り組み、事業所が集積し、開業率が高い地域特性を活かし、創業支援を推進する必要がある。	資料6-2_社会経済環境変化に係る調査(P48, 53)、資料6-3_基礎的データに係る調査(P23, 24)、区データ
専門・現場	中小企業支援や創業支援を継続しつつ、事業承継、人材確保への効果を検証し、長期的な基盤強化につなげる必要がある。	資料6-1②_基本構想等検証アドバイザーからの意見(P9)、資料7-5_町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P11)、資料7-6_既設審議会からのご意見について(P12)
生活者・個人	産業は新宿の強みと受け止められており、中小企業支援に加え、創業・起業しやすい環境整備への期待がある。	資料7-4_インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P35)、資料7-7_新宿区区民討議会報告書(速報版)(P33, 34)
職員	経営支援、事業承継、創業支援、地場産業振興、人材確保支援等を総合的に進める視点が重要。	個別施策検証結果等

●全体の方向性(案)

地域産業の持続的な発展に向けて、中小企業の経営基盤強化と新たな産業・雇用の創出を総合的に進めます。あわせて、伴走型の経営支援や事業承継支援、創業支援、地域産業の魅力発信、人材確保支援を通じて、地域経済の活性化と産業基盤の強化を図ります。

●個別の方向性(案)

- 経営支援の推進
 - ・経営相談と専門家派遣との連携による伴走型支援等の経営支援の取組を推進し、事業者の経営力強化を図ります。
 - ・後継者不在の課題を抱える事業者に対して、事業承継の実現に向けた支援を行い、長期的な経営基盤の維持強化につなげます。
- 創業支援の推進
 - ・従来からのスモールビジネスへの支援に加え、新宿区の地域特性を踏まえたスタートアップへの支援に取り組むことで、区内で多くの創業を創出し、地域課題の解決と地域経済の活性化につなげます。
 - ・新たな企業価値を創出する取組への支援も進め、新宿で創業しやすい環境づくりと都市の活力向上を図ります。
- 地域産業の振興
 - ・区内の優れた商品やものづくり技術について、PRやビジネスチャンス創出の支援を行い、新宿の魅力向上につなげます。
 - ・地場産業の魅力発信や、地場産業の団体及び事業者への支援等を通じて、地域産業の振興を図ります。
 - ・地域産業の活力をコミュニティ醸成やブランド力向上に結びつけながら、地域のにぎわいや交流促進につなげます。
- 人材確保支援の推進
 - ・求職者に向けた相談支援や区内中小企業とのマッチング促進、ICTを活用した区内中小企業の魅力発信などを通じて、就労支援及び人材確保支援に取り組みます。
 - ・潜在的な求職者や中小企業双方に届く支援と情報発信を進めることで、人手不足への対応と区内産業の持続的な発展につなげます。



(経営相談のサポート体制)



(新宿ビジネスプランコンテスト)

【個別施策 2】 商店街の魅力向上・活性化の推進

目指す姿(案)

商店街は、買い物の場としてだけでなく、人々の交流やにぎわいを生み出す地域の拠点として機能しています。商店街ごとの特色や魅力が生かされ、多様な担い手が活動する活気ある商店街が形成されるとともに、地域コミュニティとのつながりの中で、日常生活を支える身近な存在として親しまれています。

現状課題(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	商店街の維持には、既存店舗への支援とともに、商店会への加入促進・活動の担い手の確保を進め、地域生活と交流の基盤として位置付ける視点が重要。	資料6-2 社会経済環境変化に係る調査(P49)
専門・現場	商店会員の高齢化や後継者不足、デジタル化への対応に加え、商店街ごとの活力や集客力の差が課題となっており、自立性を高めながら持続的な活性化を図ることが必要。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P9)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P5,P11,P15)、資料7-6 既設審議会からのご意見について(P12)
生活者・個人	商業機能の利便性は評価されている一方で、若者を呼び込む魅力づくりや商店街のにぎわい向上が課題。	資料7-3 区民アンケート_18歳未満(P7,P8,P9,P13,P15)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P33)
職員	商店会の組織力強化、担い手育成、空き店舗活用のほか、個店の魅力向上が主な課題。	個別施策検証結果等

電子商取引(EC)の普及や消費者のライフスタイルの変化により、地域に密着した商店街を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方で、商店街は買い物だけでなく、地域の防犯やコミュニティ形成、賑わい創出の拠点としての役割も担っており、その活性化は地域社会全体の活力に直結します。

新宿区内には多数の個性豊かな商店会が存在しますが、経営者の高齢化や後継者不足による担い手の減少、それに伴う商店会組織の弱体化が共通の課題となっています。地域の活力を維持するためには、商店街自体の魅力を高めるとともに、次世代を担う若手人材の参画を促し、持続可能な運営体制を構築することが急務です。また、商店会と地域住民との協働によるイベントや地域活動を支援し、地域に根差した商店街の振興を進めていくことが重要です。

(図表1) 商店会数と、区補助金を活用した主な活動(令和7年度)

ブロック別(※)		商店会数	イベント	販売促進、P R 活動	季節装飾等	地域活動 (清掃・交通安全・街路灯整備)
1	四谷	10	四谷納涼踊り大会、牛込中央通り秋祭、荒木町餅つき大会	四谷三丁目ラッキークリスマスプレゼント	クリスマスイルミネーション	-
2	新宿	19	新宿エイサーまつり、新宿トラッドジャズフェスティバル	末広商店会多言語ホームページ制作	新宿駅近辺イルミネーション	清掃・交通安全活動、街路灯整備事業、カラー舗装事業
3	淀橋A	10	北新宿四丁目花の街づくり運動	北新宿四丁目新春プレゼントキャンペーン 柏木歳末大売出し	新宿アイランドイルミネーション	-
4	淀橋B	13	百人町まつり、大久保まつり、歌舞伎町まつり	新大久保多言語マップ制作	歳末イルミネーション、商店街フラッグ掲出	-
5	戸塚	20	高田馬場まつり、早稲田かつおフェスタ、中井・落合いどりフェア	中井歳末大売り出し	高田馬場駅前イルミネーション	-
6	早稲田	10	早稲田駅前盆踊り大会、地球感謝祭、目白ハロウィンパーティー	-	イルミネーション	清掃活動、交通安全啓発活動
7	神楽坂	5	神楽坂夏まつり、神楽坂まつり	神楽坂レシートまつり	年末年始イルミネーション、本多横丁フラッグ掲出	-
8	新宿区商店会連合会 非加盟商店会	13	-	-	歳末イルミネーション	-
合 計		100				

※新宿区商店会連合会は加盟商店会を7つのブロックに分けて運営

【個別施策 2】 商店街の魅力向上・活性化の推進

施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	商店街は、地域コミュニティの基盤であり、商店会の組織力強化と担い手確保が重要。	資料6-2_社会経済環境変化に係る調査(P49)
専門・現場	商店会活動の担い手の育成を進めるとともに、専門的知見やデジタル技術等も活用し、商店会の主体的な運営力の向上を図ることが必要。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P9)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P5, P11,P15)、資料7-6 既設審議会からのご意見について(P12)
生活者・個人	商店街の買い物環境としての利便性は、地域の魅力として評価されており、若い世代の参画促進や地域との連携強化が重要。	資料7-3_区民アンケート_18歳未満(P7,P8,P9,P15)、資料7-7_新宿区区民討議会報告書(速報版)(P33)
職員	組織力強化、担い手育成、空き店舗活用、地域協働、安全安心の取組支援といった商店会への支援とともに、個店への支援も進めることが重要。	個別施策検証結果等

●全体の方向性(案)

商店街の持続的な発展に向けて、商店会の組織力強化と個店の魅力向上を支援し、地域に根差したにぎわいづくりを進めます。あわせて、担い手育成や若手参画の促進、空き店舗の有効活用、地域との協働や安全・安心の取組などを通じて、商店街の魅力と活力を高めます。

●個別の方向性(案)

●商店街の魅力向上・活性化に向けた支援

- ・商店街の魅力向上や組織力強化の取組を支援し、商店会への加入を促進するとともに、担い手育成や若手人材の参画、デジタル技術の活用を促進することで、商店街の持続的な発展と運営基盤の強化につなげます。
- ・商店街を構成する商店会および個店の経営改善や魅力づくり、地域ごとの特色を踏まえた活動を支援することで、来街者に選ばれる商店街づくりと地域経済の活性化を進めます。
- ・空き店舗の有効活用を進めることで、商店街のにぎわいの維持・向上を図り、地域の魅力と回遊性の向上につなげます。
- ・商店会による地域との協働・連携の取組を支援することで、まちのにぎわいや交流を創出し、地域コミュニティの活性化につなげます。
- ・商店街による安全・安心や地域コミュニティの推進につながる活動を支援することで、地域に根差した商店街の振興を図り、暮らしやすく魅力あるまちづくりを進めます。



(商品券事業)



(イベントや地域活動等への支援)



(商店会情報誌の発行)

【個別施策 3】 多彩な文化芸術と歴史を活かしたまちの魅力の創造

目指す姿(案)

区民が文化芸術や歴史を身近に感じ、新宿ならではの魅力に触れながら暮らしています。まちの記憶や文化芸術・歴史資源が受け継がれ、交流や賑わい、愛着や誇りにつながっています。文化芸術と歴史が、暮らしの豊かさと都市の魅力を支える基盤になっています。

現状課題(案)

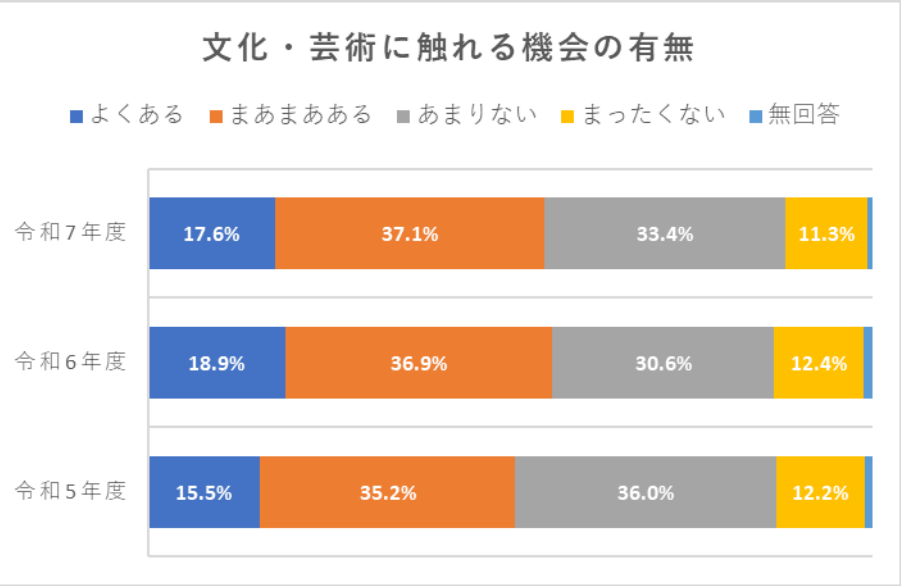
視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	多様な文化芸術・歴史資源があるため、その魅力を活かし、更なる活用につなげていくことが重要。	資料6-2 社会経済環境変化に係る調査(P52)、資料6-3 基礎的データに係る調査(P25)、区データ
専門・現場	文化芸術・歴史資源の活用を進めていく中で、参加者層の偏りや情報発信の充実が課題。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P9)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P10, 16)、資料7-6 既設審議会からのご意見について(P11)
生活者・個人	文化芸術・歴史資源は豊富で評価されている一方で、その魅力の認知拡大に向けた取組が必要。	資料7-3 区民アンケート 18歳未満(P7)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P33, 34)
職員	新宿が持つ文化芸術や歴史の魅力を発信し、区民等の興味・関心を高めるとともに、文化を通じた交流や賑わいの創出を図る取組が必要。	個別施策検証結果等

文化芸術や歴史は、人々の心に豊かさをもたらすとともに、地域への愛着や誇りを育み、まちの個性を形づくる重要な要素です。多様な価値観が交差する現代においては、文化芸術を通じた交流の促進や、地域の歴史を次世代へ継承する取組の重要性が高まっています。

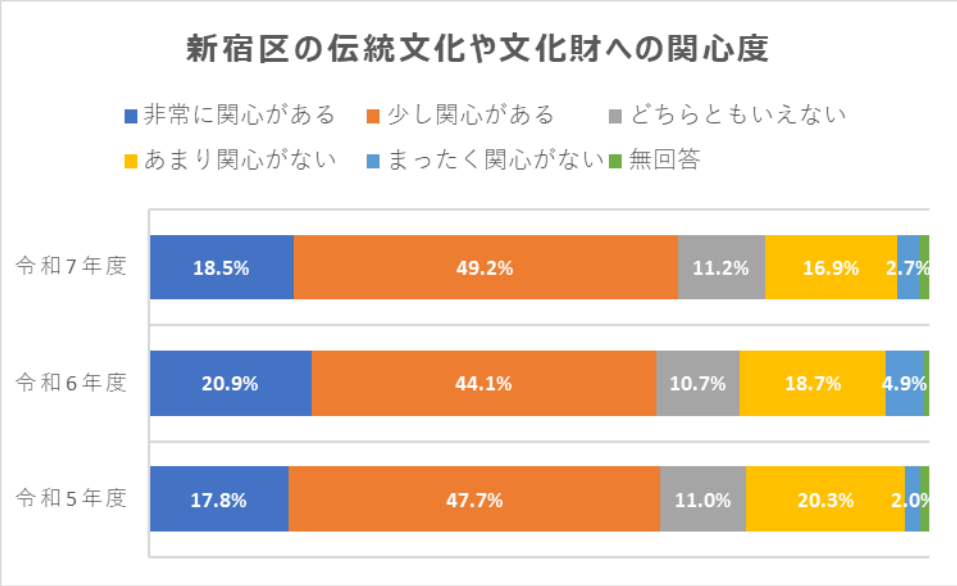
古くから多くの文化人や芸術家が集い、多様な文化を育んできた新宿区は、現在も多彩な文化芸術・歴史資源を有しています。一方で、その魅力は十分に認知されているとは言えず、区民が気軽に文化芸術や歴史に触れられる機会の充実が求められています。そのため、新宿の文化芸術や歴史の魅力を積極的に発信し、文化を通じた交流や賑わいを創出することで、まちの活力向上につなげていく必要があります。

今後は、「新宿フィールドミュージアム」を中心として、文化芸術への関心と参加を促し、区民が身近に文化芸術を鑑賞・体験できる機会を創出していくことが重要です。また、新宿歴史博物館及び4記念館の利用促進を図るとともに、区内にある歴史的建造物や遺跡、地域に根付く伝統文化、新宿ゆかりの人物などへの興味・関心を高め、まちへの愛着と誇りの醸成につなげていくことが求められています。

区政モニターアンケート



区政モニターアンケート



【個別施策 3】 多彩な文化芸術と歴史を活かしたまちの魅力の創造

施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	区内には多様な文化芸術・歴史資源があり、博物館等の来館者も増加していることから、体験機会の充実や情報発信の強化を通じた更なる活用促進が重要。	資料6ー2_社会経済環境変化に係る調査(P52)、資料6ー3_基礎的データに係る調査(P25)、区データ
専門・現場	情報発信の強化や参加者層の拡大を通じて、文化芸術や歴史に触れる機会の充実と、地域の文化芸術・歴史資源の継承・活用を一層進めていく必要がある。	資料6ー1②_基本構想等検証アドバイザーからの意見(P9)、資料7ー5_町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P10、P16)、資料7ー6_既設審議会からのご意見について(P11)
生活者・個人	豊富な文化芸術・歴史資源は新宿の魅力である一方、十分に認知されていないことから、認知拡大に向けた情報発信の強化や体験機会の充実が必要。	資料7ー3_区民アンケート_18歳未満(P7)、資料7ー7_新宿区区民討議会報告書(速報版)(P33、34)、令和8年度しんじゅく若者会議(P10、P11、P17、P23、P36、P52、P53)
職員	身近に文化芸術や歴史に親しむ機会の充実や、ICTを活用した情報発信の強化、施設の魅力向上を通じて、文化芸術・歴史資源の継承・活用を進めていくことが重要。	個別施策検証結果等

●全体の方向性(案)

新宿ならではの文化芸術と歴史の魅力を活かし、区民の暮らしに彩りと愛着を生むまちづくりを進めます。あわせて、文化芸術や歴史に触れられる機会の充実や魅力発信、団体間の連携強化、文化芸術・歴史資源の継承と関連施設の魅力向上などを通じて、まちの魅力を高めます。

●個別の方向性(案)

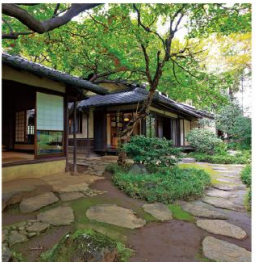
- 文化芸術の振興
- ・新宿が誇る文化の多様な魅力を区民が知り、鑑賞・体験・交流できる場を提供することで、文化芸術への理解を深め、継続的な文化芸術活動への参画と新たな創造を促します。
 - ・「新宿フィールドミュージアム」の取組を通じて、区内の文化芸術団体の交流・連携を強化することで、分野を越えたつながりや新たな活動の広がりを生み、文化芸術の更なる活性化につなげます。
 - ・ICTも活用しながら、ターゲット層に応じた戦略的な情報発信に取り組むことで、多彩な文化芸術資源の魅力を分かりやすく伝え、文化芸術に触れる機会の拡大と新宿の魅力発信の強化を図ります。
- 文化歴史資源の継承
- ・貴重な文化歴史資源を発掘・保存しながら、その価値を発信することで、区民がまちの魅力を再発見し、伝統文化や文化財への理解と関心を深められるようにします。
 - ・新宿ゆかりの文化人の足跡や作品の魅力を区内外に広く発信することで、まちの記憶の継承と新宿ならではの文化的魅力の発信強化につなげます。
 - ・新宿歴史博物館や4記念館については、多様なニーズに対応しながら、地域の歴史や文化を継承する親しみやすい施設として魅力向上に取り組むことで、学びと交流の拠点機能の充実を図ります。



(文化体験プログラム)



(新宿文化センター)



(博物館・記念館)

【個別施策 4】 区民の暮らしと調和のとれた国際観光都市・新宿としての魅力の向上



目指す姿(案)

各地域が持つ多様な資源を活用することで、区全体の魅力とブランド力が一層高まり、来街者が地域を回遊しながら「新宿らしさ」を実感し、地域への愛着を育むことのできるまちとなっています。

新宿の大きな魅力である区内の商業地や繁華街では、地域の個性や魅力と安全・安心、環境美化が調和し、地域内の多様な主体との連携のもと、区民も来街者も心地よく、安心して過ごせる快適な空間が保たれています。



現状課題(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	訪日観光客の急速な回復により、まちの賑わいが増加する一方、特定の地域に偏らない回遊性の向上が必要。	資料6-2 社会経済環境変化に係る調査(P50, 51)、区データ
専門・現場	各地域の個性を生かした賑わいを創出するとともに、新宿のブランド力や独自性を高め、新宿の文化を深く理解する来街者を増やすことが重要。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(総括表)(P6, 10)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P12)
生活者・個人	多様な観光資源や魅力を有し、多くの来街者が訪れる一方、来街者の増加に伴う治安やごみ問題など、生活環境への影響を軽減する取組が必要。	資料7-2 区民アンケート 18歳以上(P30, 34)、資料7-3 区民アンケート 18歳未満(P11, 12)、資料7-4 インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P12, 13, 27, 29, 34, 35)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P33, 34)
職員	ICTを活用した観光分野の課題解決や、多様な主体(区民・事業者・行政など)の連携強化による安全・安心に過ごせる快適な空間の確保が必要。	個別施策検証結果等

多面的な魅力を有する新宿区には、各地域に歴史や文化、地域産業、みどりなど、多様な地域資源が蓄積されています。一方で、これらの資源が新宿全体のブランドとして十分に認識・発信されているとは言えず、地域ごとの個性が埋もれやすいことや、区内の回遊性、情報発信の分かりやすさにも課題があります。

また、コロナ禍からの訪日観光客の回復が進む中、新宿区は、国内外から多くの人を引きつける集客拠点として存在感を高めています。一方、一部の商業地や繁華街では、ごみの散乱や滞留、治安への懸念など、来街者の増加に伴う新たな課題も生じています。こうした地域の暮らしへの影響を踏まえ、賑わいの創出と、安全・安心や環境美化の確保を両立していくことが求められています。

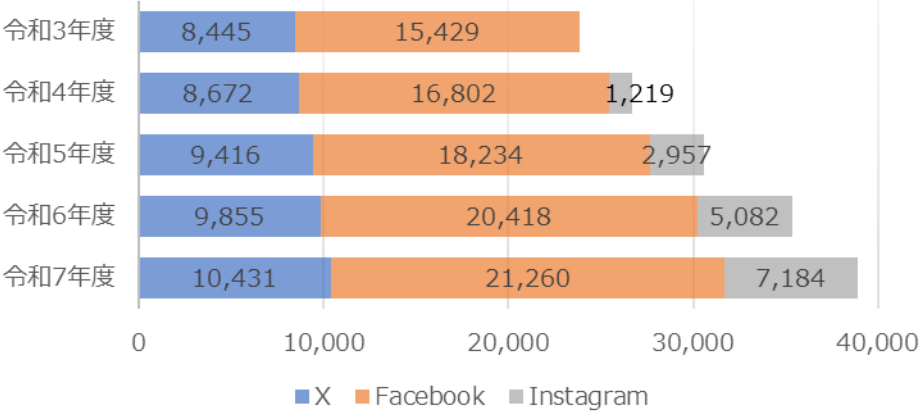
今後は、多様な主体の連携のもと、地域の個性を生かした魅力づくりと、安全・安心で快適な環境整備を一体的に進めることが重要です。併せて、各地域の資源を活用しながら新宿全体のブランド力を高めるとともに、来街者と区民の双方に地域の魅力が伝わる効果的な情報発信を強化し、区内の回遊や地域への愛着につなげていくことが求められます。

国・地域別外国人旅行者行動特性調査(東京都調査)による「訪問した場所」
(%:都内の各地域を訪問したと回答した割合)

	2022年		2023年		2024年		2025年	
第1位	渋谷	58.4%	渋谷	67.1%	渋谷	62.6%	渋谷	60.3%
第2位	新宿・大久保	50.3%	新宿・大久保	57.4%	新宿・大久保	53.4%	銀座	54.1%
第3位	銀座	48.8%	銀座	50.1%	銀座	51.9%	東京駅周辺・丸の内・日本橋	51.8%
第4位	東京駅周辺・丸の内・日本橋	45.2%	浅草	47.4%	東京駅周辺・丸の内・日本橋	51.1%	新宿・大久保	50.8%

外国人旅行者が「新宿・大久保」を訪問したと回答した割合は、毎年50%を超える高い水準で推移しています。一方、同調査における「最も満足した場所」の順位は、2019年の第1位(13.7%)から2023年には第6位(9.5%)へと低下しており、新宿のまちのブランド力向上が求められます。

新宿観光振興協会SNSフォロワー数



新宿観光振興協会では、SNSを活用した情報発信を強化しており、フォロワー数が年々増加するなど、着実に成果を上げています。引き続き多様なイベント情報に加え、マナー啓発情報等も積極的に発信し、SNSを効果的に活用して情報発信力を高めていくことが重要です。

【個別施策 4】 区民の暮らしと調和のとれた国際観光都市・新宿としての魅力の向上

施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	訪日観光客の増加による賑わいを維持しつつ、特定の地域に偏らない回遊性の向上や観光の質を高める取組を進め、持続可能な観光の実現を図ることが重要。	資料6ー2 社会経済環境変化に係る調査(P50, 51)、区データ
専門・現場	各地域の個性や地域資源を生かした新宿ならではの魅力や独自性を高め、地域への理解や愛着を持つ観光客の増加につなげることが重要。	資料6ー1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P6, 10)、資料7ー5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P12)
生活者・個人	治安や環境美化対策について住民目線で配慮するとともに、観光案内の充実や来街者へのルールの周知、地域資源の認知向上を図ることが重要。	資料7ー2 区民アンケート 18歳以上(P30, 34)、資料7ー3 区民アンケート 18歳未満(P11, 12)、資料7ー4 インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P12, 13, 27, 29, 34, 35)、資料7ー7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P33, 34)
職員	観光分野の課題解決に向けたICTを活用した観光DXの推進や、区民・事業者・行政など多様な主体の連携強化により、安全・安心で快適な空間づくりと、多彩な魅力を楽しめる観光の実現が重要。	個別施策検証結果等

●全体の方向性(案)

各地域が持つ個性豊かな資源を最大限に生かし、新宿ならではの魅力やブランド力を高め、区内の回遊や賑わいづくりを進めるとともに、多様な主体との連携を強化し、国内外から訪れる来街者が安全・安心で快適に過ごせる環境を整え、地域と調和した持続可能な観光都市を築きます。

●個別の方向性(案)

- 新宿のブランド力の強化
 - ・区民や企業等と連携し、各地域の個性を生かした事業を展開するなど、新宿のブランド力や独自性を強化し、まちの賑わい創出や区内回遊性の向上に取り組めます。
 - ・区内の優れた商品や新宿ならではのものづくり技術など、多様な地域資源を効果的に活用し、新宿の新たな魅力を創出します。
- まちの魅力発信
 - ・SNSによる即時性の高い情報発信や、AIによるイベント情報の収集・発信など、ICTを積極的に活用して観光DXを推進します。
 - ・様々な媒体を活用し、分かりやすく利便性の高い観光情報を提供することで、区内の回遊促進や観光案内機能の強化、来街者の集中による混雑緩和等につなげます。
- 歌舞伎町のエリアマネジメント
 - ・区内の繁華街の代表である歌舞伎町では、地区内の各主体が「歌舞伎町エリアマネジメント基本方針」に基づいて共通のビジョンを共有し、主体的なまちづくりに取り組みます。こうした取組を踏まえ、商業地や繁華街における安全・安心や環境美化と両立した賑わいの創出を推進します。



新宿観光案内所



歌舞伎町シネシティ広場でのイベント
(KABUKICHO KITCHENCAR PARK)



企業との連携によるイベント（新宿まちフェス）

【個別施策 5】 回遊性と利便性の向上による魅力的で歩きやすいまちづくり



目指す姿(案)

新宿駅をはじめとする主要駅周辺では、人中心の都市空間への再編と交通結節機能の強化が進み、商業・文化・滞在機能の魅力が周辺地域へ自然に広がっています。官民が連携しながら、回遊性と利便性に優れた歩行者ネットワークが形成され、誰もが歩きたくなる魅力的なまちとなっています。

また、年齢、性別、国籍、言語、個人の能力やライフスタイルにかかわらず、すべての人が安心して快適に利用できる生活環境および公共空間が整っています。



現状課題(案)

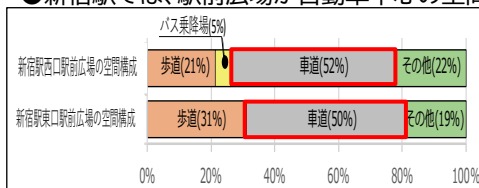
視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	主要駅周辺では、歩行者空間の不足や複雑な動線の改善に向けた人中心の空間再編が求められている。また、ユニバーサルデザインの観点から、バリアフリールートの複数化や情報面も含めた面的な整備が課題。	資料6-2 社会経済環境変化に係る調査(P56)、資料6-3 基礎的データに係る調査(P28)、区データ(P35,P36、P51)
専門・現場	主要駅周辺では、分かりやすい動線や案内の充実、多言語対応の強化に加え、身体障害だけでなく精神障害や知的障害も含めた情報・心理・社会的バリアに配慮した歩行環境整備が課題。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P6,P7)、資料7-6 既設審議会へのアンケートとりまとめ(P9,P10)
生活者・個人	交通利便性は高く評価されている一方、主要駅周辺の分かりにくさや混雑、歩きにくさの改善に加え、高齢者や子育て世代なども利用しやすい移動環境が求められている。	資料7-2 区民アンケート_18歳以上(P13)、資料7-4 インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P26~P29)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P29,P30,P47,P48)
職員	主要駅周辺では、回遊性・利便性を高める歩行者空間や交通施設の整備を進めるとともに、当事者の意見を踏まえたバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進や、分かりやすい案内の充実が重要。	個別施策検証結果等(P24,P31)

都市の魅力と活力を高めるためには、自動車中心から人中心へと都市空間を転換し、主要駅を核に安全で快適に歩ける環境と拠点間の回遊性を高めていくことが求められています。駅周辺の複雑な動線、歩行者空間の不足による混雑、バリアフリールートの複数化や高低差への対応、情報面を含むアクセシビリティの課題など、利便性や回遊性向上の面でなお改善が必要です。

また、主要駅周辺の回遊性を高める歩行者ネットワークや、滞留・交流を支える空間の充実も重要な課題となっています。今後は、駅前空間の再編や交通結節機能の強化、案内のわかりやすさの向上、新たな道路空間の活用などを通じて、人にやさしい交通環境と歩行者中心の都市空間を形成していくことが求められます。あわせて、当事者の意見を踏まえながら、物理的な段差の解消だけでなく、情報面・心理面・社会的な障壁の軽減を図り、ユニバーサルデザインの理念に基づく連続的な整備と普及啓発を進めることで、誰もが安心して移動し利用できるまちづくりが求められています。

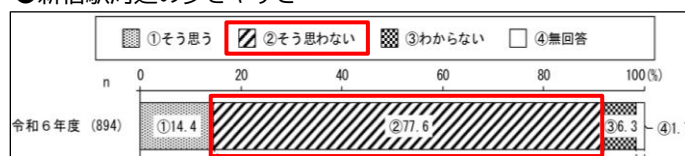
【まちの課題】

●新宿駅では、駅前広場が自動車中心の空間構成



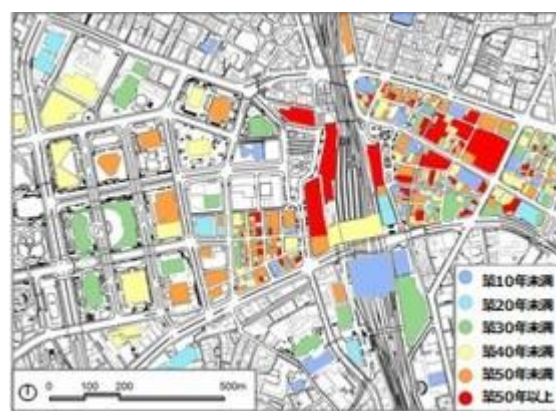
▲新宿駅の駅前広場の空間構成比(2018年時点)

●新宿駅周辺の歩きやすさ



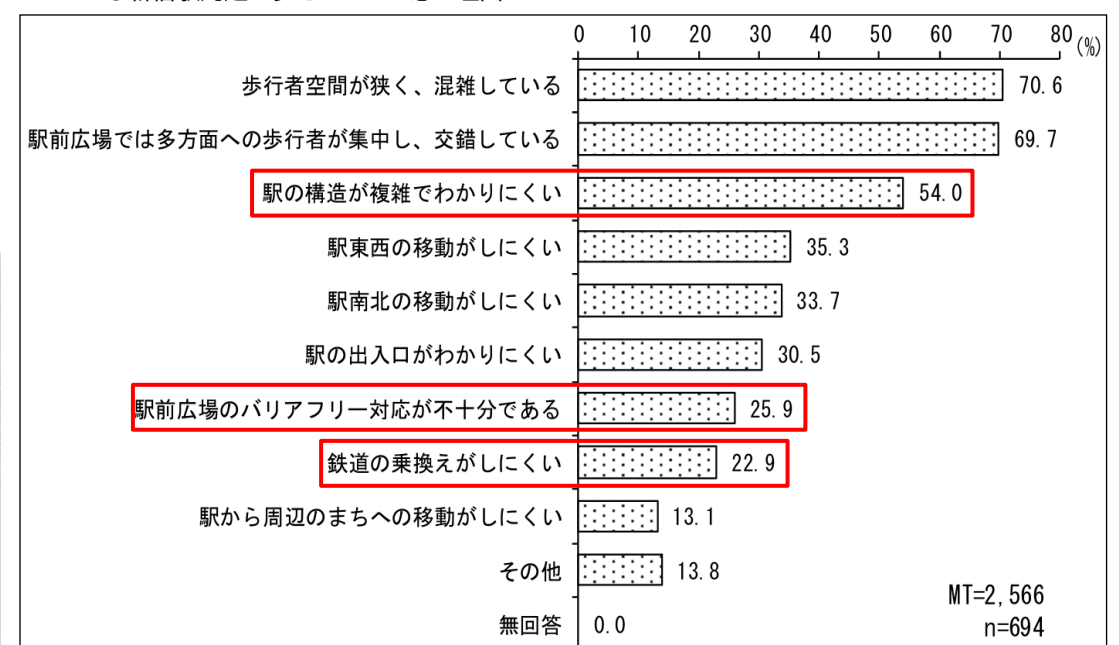
▲令和6年区政モニターアンケート

●新宿駅直近地区では、築50年以上の建物が集積



▲「新宿駅周辺の大規模建築物」・「新宿駅東口地区の建築物」・「西新宿一丁目商店街地区の建築物」の築年数(2018年時点)

●新宿駅周辺が歩きにくいと思う理由



▲令和6年区政モニターアンケート

【個別施策 5】 回遊性と利便性の向上による魅力的で歩きやすいまちづくり

施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	主要駅周辺では歩行者空間の不足や複雑な動線などの課題があり、人中心の空間再編や回遊性向上が求められている。また、ユニバーサルデザインの観点から、バリアフリールートの複数化や情報面を含めた面的な整備が課題となっている。	資料6-2_社会経済環境変化に係る調査(P56)、資料6-3_基礎的データに係る調査(P28)、区データ(P35,P36,P51)
専門・現場	主要駅周辺では、分かりやすい動線や多言語案内、回遊性を確保するとともに、情報・心理・社会的バリアにも配慮した安全で利用しやすい移動環境の整備が求められている。	資料6-1②_基本構想等検証アドバイザーからの意見(P6,P7)、資料7-5_町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P11,P17,P18)、資料7-6_既設審議会へのアンケートとりまとめ(P9,P10)
生活者・個人	交通利便性の高さを生かしながら、主要駅周辺の混雑や分かりにくい動線、歩きにくさの改善を進めるとともに、高齢者や子育て世代を含む誰もが利用しやすい移動環境や案内の充実が求められている。	資料7-2_区民アンケート_18歳以上(P13,P23)、資料7-3_区民アンケート_18歳未満(P7~P10)、資料7-4_インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P12,P15,P16,P26,P27,P29)、資料7-7_新宿区区民討議会報告書(速報版)(P29,P30,P47,P48)
職員	主要駅周辺では、回遊性・利便性の高い都市空間の形成を進めるとともに、当事者の意見や事前協議を踏まえた質の高いバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進と理解促進が重要。	個別施策検証結果等(P31)

●全体の方向性(案)

新宿駅をはじめとする区内の主要駅周辺において、先端技術を取り入れながら、交通ターミナルとしての交通結節機能の強化を図るとともに、人中心の都市空間への再編をめざします。あわせて、商業・文化・滞在施設など多様な都市機能や地域特性を活かしながら、より魅力的で賑わいあふれるまちづくりをめざします。これらを官民が連携して進めることで、誰もが安心して歩きたくなるまちを実現します。

さらに、年齢、性別、国籍、言語、個人の能力やライフスタイルにかかわらず、すべての人が安心して快適に利用できる生活環境および公共空間の整備を推進します。

●個別の方向性(案)

●新宿駅周辺地区の整備推進

・新宿駅直近地区は、世界一の乗降客数を誇る新宿駅を擁する交流の核であり新宿の顔であるとともに、世界中から人々を呼び込み、駅周辺の各地区へ送り出す拠点として、国際的な賑わい交流を創造する都市空間づくりを進めるとともに、多様な規模の建築物の建替えを促進し、新宿らしい賑わいの維持発展や安全・安心で快適なまちづくりをめざします。

・少子高齢化、障害のある人の社会参加、外国人観光客の増加などに対応できるよう、ユニバーサルデザインに配慮した次世代の新宿グランドターミナルの整備を促進します。

・人中心の駅前広場や道路空間、多層的な歩行者ネットワークを民間と連携して整備するとともに、鉄道・バス・自転車・次世代モビリティなど地域活動を支える多様な交通手段に対応した施設の整備や、多言語にも配慮した分かりやすい案内の充実を図り、利便性・回遊性とまちの賑わいを高めます。

●飯田橋駅周辺地区の整備推進

・駅周辺のまちづくりと連携し、歩行者デッキや地下鉄出入口のバリアフリー化、まちの高低差を解消する歩行者空間の整備などを行うとともに、駅前にふさわしい賑わい拠点の形成を促進します。歩きやすさや回遊性の向上を図り、駅周辺の利便性と魅力を高める整備を進めます。

●高田馬場駅周辺地区の整備推進

・誰もが自由に、安全に、快適に移動できる歩行者ネットワークを形成し、駅周辺の回遊性を向上させるとともに、様々な人や文化が出会い、交流しやすくなるまちづくりを推進します。歩行空間の改善に加え、安全・安心や生活環境との調和にも配慮しながら、駅周辺の魅力向上を図ります。

●その他主要駅の地区周辺の整備推進

・安全で快適性の高い空間や憩いのスペースなどを日常的につくるとともに、歩行者の滞留空間や賑わいの創出につなげるため、「歩行者利便増進道路(ほこみち)」等の新たな道路空間の活用方法を検討し、歩行者の回遊性とまちの賑わいを向上させます。



撮影協力：
東日本旅客鉄道株式会社

●新宿駅東西自由通路の整備



●新宿駅東口広場等の緊急整備

【個別施策 5】 回遊性と利便性の向上による魅力的で歩きやすいまちづくり

施策の方向性(案)

●個別の方向性(案)

●バリアフリーの整備促進

- ・協議会の場などを活用して、促進方針で示された配慮事項を各施設管理者に周知啓発し、当事者の意見を踏まえた取組を推進します。

●ユニバーサルデザインまちづくりの推進

- ・アドバイザーを活用した事前協議制度を実施し、建築物等の施設所有者等に指導や助言を行うことで、質の高い都市施設の整備を推進します。
- ・区ホームページやSNS等での情報発信の充実、ガイドブックの配布等を通じて、区民等のユニバーサルデザインまちづくりに対する理解を深めていきます。

● バリアフリーの整備促進

■ 移動等円滑化促進方針

令和3年11月策定
促進方針に基づく整備推進を目的に、施設管理者、高齢者、障害者等当事者が参加する促進協議会を開催。



促進方針

■ 鉄道駅のバリアフリー整備

駅出入口からホームまで円滑に移動できる経路確保のため、エレベーターの整備を推進。



● ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

■ UDガイドブック

区民参加型ワークショップを開催し、利用者の視点からの様々な気づき等をまとめたガイドブックを作成し、配布。



ガイドブック

■ 条例パンフレット

区民や施設所有者等を対象に、条例の概要を示したパンフレットを作成し、配布。



パンフレット

■ UDニュースレター

UDに関して、区内で先進的な施設整備を行う施設や活動を行う団体取材し、区民・事業者の自主的・自発的なUDの取り組みを促す記事を作成。
区ホームページへの掲載や関係団体への配布等を行い、広く情報発信(年4回)。



UDまちづくり
ニュースレター

【個別施策 6】 地域特性を活かした持続可能で魅力ある都市空間づくり



目指す姿(案)

地域特性や魅力を十分に活かした地域主体のまちづくりにより、人々が住み、働き、学び、遊び、そして世代を超えてつながる都市として、誰もが誇りと愛着がもてるまちになっています。
あわせて、歴史的景観や自然景観と調和した個性的で美しい景観に配慮したまち、環境にやさしく災害への対応力を備えた持続可能な都市空間が実現し、誰もが住みたくなる豊かで良好な居住環境が整っています。

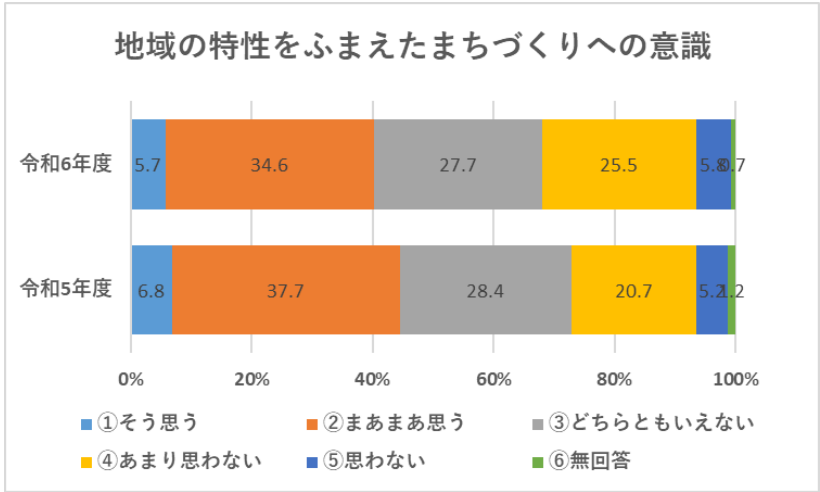


現状課題(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	地域特性を踏まえたまちづくりへの評価は限定的で、地区住民の参画と協働により、地区特性を踏まえたまちづくりを推進することが求められている。	区データ(P50)
専門・現場	地域特性を踏まえたまちづくりは評価する一方、再開発などは調整に時間を要し、地域ごとの進捗に差が出やすいことが課題。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P7)、資料7-5町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P15, 16, 18)
生活者・個人	歴史や文化、緑を大切にしたい区民目線の住みやすいまちづくりが求められる。防災の視点から建物の老朽化への対応が求められる。	資料7-2 区民アンケート_18歳以上(P26)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P29, 30)
職員	地域特性に応じたまちづくり制度等の活用と、きめ細かな景観誘導を行うことが求められている。	個別施策検証結果等(P24, 32)

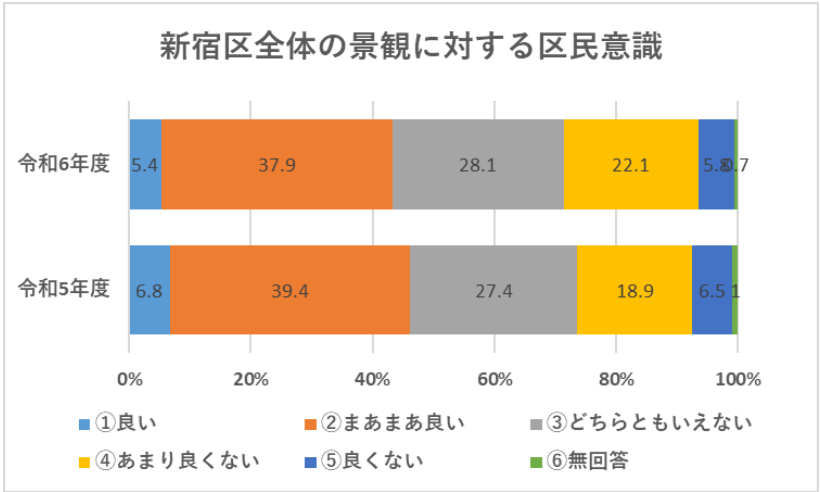
大規模な自然災害への備えとしての都市の不燃化・強靱化や、地域固有の歴史・文化・景観といった魅力の保全・育成、誰もが住みたくなる豊かで良好な居住環境の形成を一体的に進めることで、持続可能な都市空間を形成を図ります。それぞれのまちが持つ個性を活かした、きめ細やかなまちづくりルールの策定と運用が求められています。区は、高層ビル群から風情ある街並み、閑静な住宅街まで、極めて多様な地域特性を有しています。こうした多様性は大きな魅力ですが、無秩序な開発が進むことで、地域コミュニティの分断や良好な景観・住環境が損なわれるリスクもはらんでいます。それぞれの地域の実情に合った、地域主体のまちづくりルールを定着させていくことが課題となっています。地域の魅力を未来へ引き継ぐため、区は地域住民等との協働によりまちづくり制度を活用し、防災性の向上と地域の個性を活かしたまちづくりを推進する必要があります。特に、新宿駅、飯田橋駅、高田馬場駅周辺の主要拠点においては、それぞれの特性を活かした独自のまちづくりが求められます。あわせて、令和5年3月に改定した「新宿区景観まちづくり計画・景観形成ガイドライン」を積極的に活用し、効果的できめ細かな景観誘導を図ることで、美しい都市空間を形成していくことが重要です。

(図表1 地域の特性をふまえたまちづくりへの意識)



【令和6年度第4回区政モニターアンケートより】

(図表2 新宿区全体の景観に対する区民意識)



【令和6年度第4回区政モニターアンケートより】

【個別施策 6】 地域特性を活かした持続可能で魅力ある都市空間づくり

施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	景観や地域特性への評価は高くない。地域住民等の参画と協働により、地区特性を踏まえたまちづくりを推進することが重要。	区データ(P50)
専門・現場	地域ごとの特性を踏まえた住民参画と合意形成を重視し、景観まちづくり計画やガイドラインを活かした地域らしい空間形成が重要。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P7)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P15, 16, 18)
生活者・個人	住む・働く・憩う場のメリハリや景観、歴史・緑の継承を重視する声があり、区民目線の空間形成が重要。	資料7-2 区民アンケート 18歳以上(P26)、資料7-3 区民アンケート 18歳未満(P10, 15)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P29, 30, 51)
職員	地域住民等との協働によるまちづくり制度等の策定・活用をするとともに、地域特性に応じたきめ細かな景観形成を継続することが重要。	個別施策検証結果等(P32)

●全体の方向性(案)

地域の個性と魅力を活かしながら、防災性の向上と良好な住環境の形成を一体的に進め、持続可能な都市空間づくりを進めます。あわせて、地域住民等との協働によりまちづくり制度等の策定・活用と、景観まちづくり計画・景観形成ガイドラインを活用した景観誘導を通じて、調和のとれた魅力あるまちづくりを推進します。

●個別の方向性(案)

●地区計画等のまちづくりルールの策定

- ・地域住民との協働によりまちづくり構想やガイドライン等のまちづくりルールを検討・策定し、進捗状況に応じて、ルールの実現に向けた地区計画等の策定・活用をすることで、地域の個性や魅力を活かしたまちづくりや不燃化を推進します。
- ・新宿駅周辺地区では、国際競争力を備えた都市活力の維持・発展に向けた取組を進めています。
- ・飯田橋駅東口周辺地区及び高田馬場駅周辺地区では、地域の特性を活かした駅周辺のまちづくりを推進してきます。

●景観に配慮したまちづくりの推進

- ・令和5年3月に改定した「新宿区景観まちづくり計画・景観形成ガイドライン」を活用し、より効果的できめ細かな景観誘導を図ります。歴史・文化・みどり・地域資源と調和した景観形成を進め、地域価値やまちの魅力向上につなげます。

新規

3

夜間景観の形成

P. 14

- ▶ 新宿区には繁華街、歴史を感じる地域、自然や住宅地など、多様な夜間景観が存在します。それぞれの地域特性を活かしながら日中とは違った夜間景観を形成し、まちの魅力をさらに向上させるため、夜間の景観形成方針を新たに追加し、地域特性に応じた照明計画や用途にあった適切な照明となるように適切に誘導します。



神楽坂の落ち着いた雰囲気、夜間景観

新規

4

公共空間における環境や人の活動を重視した景観の視点

P. 14

- ▶ コロナ禍やデジタル化の進展等を契機として、人々の働き方・暮らし方が変化し、公共空間に求められる機能等が見直されています。そのため、公共空間の景観形成方針を新たに追加し、居心地の良い公共空間や誰もが利用しやすいゆとりある空間が創出されるように適切に誘導します。



開放性の高い外観デザインとテラス席

(「新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン」改定の概要)



(飯田橋駅前地区基盤整備ビジョン)

【個別施策 1】 行政サービスの強化

目指す姿(案)

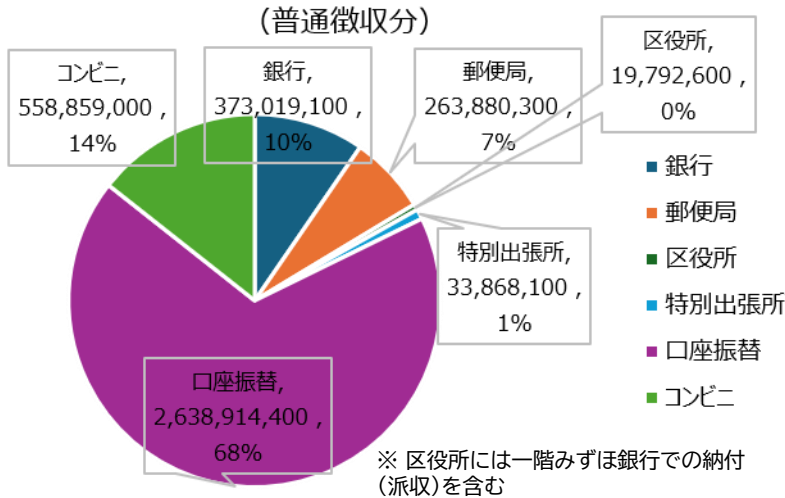
区民一人ひとりが、必要な手続やサービスに迷うことなくたどり着き、自分に合った方法で、いつでもどこでも利用できます。デジタル技術の利便性と対面支援の安心感が両立し、誰もが安心して利用できる行政サービスが実現しています。

現状課題(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	行政DXは、窓口の利便性向上、手続の簡素化、職員負担の軽減、データに基づく政策形成の推進を通じて、限られた資源で質の高い行政サービスを維持するための重要な手段となっている。その一方で、デジタル化による利便性向上と、誰一人取り残さないサービス提供の両立が求められている。	資料6-2 社会経済環境変化に係る調査(P60)、資料6-3 基礎的データに係る調査(P30)、区データ(P70)
専門・現場	オンライン化やワンストップ化への期待が高まる一方、分かりやすい申請環境の整備や、オンラインサービスの周知、多言語対応、障害者への意思疎通支援の充実が求められている。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P11)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P13,P20)、資料7-6 既設審議会からのご意見について(P14,P15)
生活者・個人	行政サービスは比較的評価されている一方、窓口の待ち時間や混雑、手続の簡素化、誰もが利用しやすいオンラインサービスの充実や行政情報の分かりやすい発信が求められている。	資料7-2 区民アンケート 18歳以上(P24,P27,P32,P35)、資料7-4 インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P37,P38)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P37,P38,P40,P41)
職員	電子納付とオンライン申請の拡充、デジタル技術やAIの活用による業務効率化を進め、限られた人材でも質の高い行政サービスを提供できる体制づくりが課題。	個別施策検証結果等(P35,P36)

(図表1 令和6年度 後期高齢者医療保険料 納付方法別集計)

令和6年度 後期高齢者医療保険料 納付方法別集計



【高齢者医療担当課調べ】

デジタル化の進展に伴い、社会全体でオンライン化やキャッシュレス化が定着し、時間や場所を問わず手続や支払いができる利便性の高い行政サービスへの期待が高まっています。また、人口減少や人材不足が進む中、限られた資源で質の高い行政サービスを維持するため、行政DXの推進が求められています。

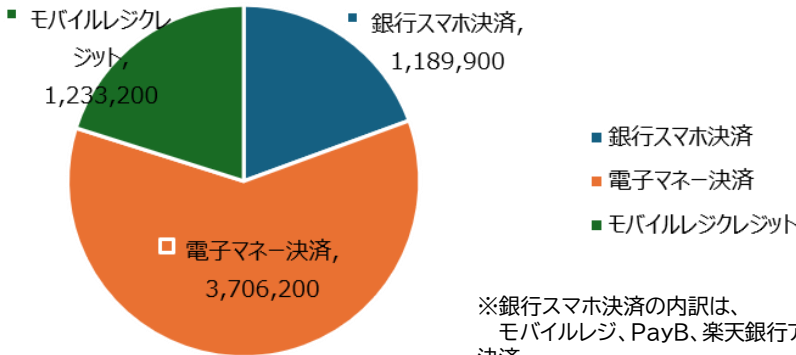
新宿区では、多様な決済手段の導入や行政手続のオンライン化を進めていますが、来庁が難しい区民の負担軽減や窓口の混雑緩和に向けた更なる利便性の向上が求められています。また、オンライン化やワンストップ化への期待が高まる一方、分かりやすい申請環境の整備、オンラインサービスの周知、多言語対応、障害者への意思疎通支援の充実も課題となっています。

こうした中、区は多様な電子納付手段の拡充や24時間365日利用可能なオンライン申請の充実を進めるとともに、ポータルサイトの活用などにより行政サービスの利用環境の向上を図る必要があります。また、デジタル技術やAIの活用による業務効率化や事務処理の集約を進め、持続可能な行政運営につなげていくことが求められています。

さらに、窓口や郵送による手続も継続しながら、デジタル機器に不慣れな高齢者等への配慮を行い、誰もが簡単で分かりやすく利用できる「誰一人取り残さない」サービス提供体制を構築することが重要です。

(図表2 令和7年度(7~9月)コード決済納付状況)

令和7年度(7月~9月)コード決済納付状況



※銀行スマホ決済の内訳は、モバイルレジ、PayB、楽天銀行アプリ決済

後期高齢者医療保険料の納付手段として、令和7年度7月からモバイルレジ等のバーコード決済を導入した。7月から9月までの3か月間で6,129,300円の納付があった。今後、バーコード決済が被保険者に認知されていけば、さらなる伸長が見込める。QRコード決済は一般的にバーコード決済よりも認知度が高いことから、エルタックス納付の導入はより高い効果が見込める。

【高齢者医療担当課調べ】

【個別施策 1】 行政サービスの強化

施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	行政DXを推進するとともに、多様な決済手段やオンライン申請の拡充を進め、利便性の向上と効率的な行政運営を両立していくことが重要	資料6ー2_社会経済環境変化に係る調査(P60)、資料6ー3_基礎的データに係る調査(P30)、区データ(P70)
専門・現場	デジタル化を進めつつ、分かりやすいオンライン申請環境の整備やワンストップ化を推進するとともに、多言語対応や障害者への意思疎通支援の充実を図り、誰もが利用しやすい行政サービスを実現していく必要がある。	資料6ー1②_基本構想等検証アドバイザーからの意見(P11)、資料7ー5_町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P13,P20)、資料7ー6_既設審議会からのご意見について(P14,P15)
生活者・個人	窓口やオンラインサービスを通じて、簡単で分かりやすい手続と適切な情報提供を実現し、区民の利便性向上を図ることが重要	資料7ー2_区民アンケート_18歳以上(P24,P27,P32,P35)、資料7ー4_インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P37,P38)、資料7ー7_新宿区区民討議会報告書(速報版)(P37,P38,P40,P41)
職員	多様な決済手段の拡充と事務処理の集約を進めるとともに、デジタル技術やAIを活用した業務効率化を図り、分かりやすい申請環境を整備することが重要	個別施策検証結果等(P35,P36)

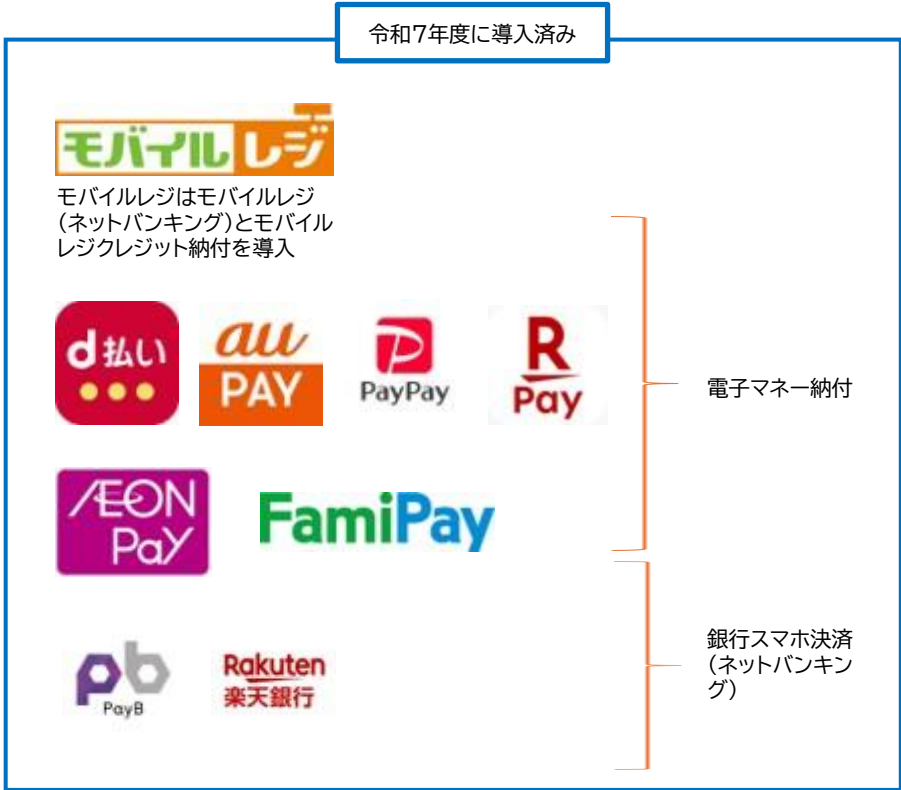
●全体の方向性(案)

誰もが簡単で分かりやすく利用できる行政サービスの実現に向けて、電子納付やオンライン申請環境の拡充を進めるとともに、利便性の向上を図ります。あわせて、ポータルサイトを活用した情報提供の充実や事務処理の効率化を進め、窓口や郵送による手続も継続しながら、多様な利用者に配慮した誰一人取り残さない行政サービスを推進します。

●個別の方向性(案)

●行政サービスの向上

- すべての公金について電子納付に対応できるよう検討を進め、コード決済やクレジットカード決済等の多様な決済手段の拡充を図ります。また、オンライン申請や電子納付の充実を進め、来庁することなく行政サービスを利用できる環境整備を推進します。
- 庁内における事務処理の集約等を進め、事務の効率化を図ります。
- 利用者ニーズやデータ分析を踏まえ、24時間365日利用可能なオンライン手続の充実を進めるとともに、広報新宿、区ホームページ、SNS、ポータルサイト等を活用して、オンライン手続の周知と利用促進を図ります。
- デジタル機器の利用に不安を感じる区民にも配慮し、窓口や郵送による従来の手続を継続しながら、誰もが簡単で分かりやすく手続できる仕組みづくりを進めます。



令和8年9月24日からeL-QR納付運用開始により、対象拡大

【個別施策 2】 持続可能な行財政運営



目指す姿(案)

社会経済状況の変化や多様化・複雑化する行政需要に対し、民間活力、デジタル技術・AI及びデータを活用しながら、効果的・効率的で質の高い区民サービスが安定的に提供されています。また、地方分権改革や自治権拡充に向けた取組が進み、専門性と政策形成能力を備えた職員と組織により、持続可能な区政運営が実現しています。



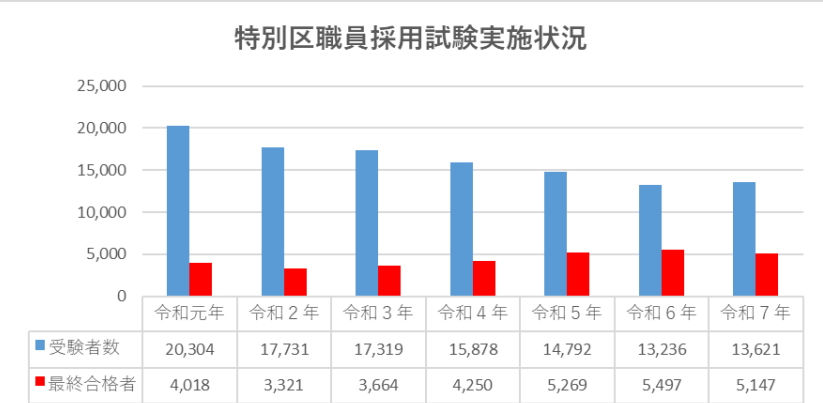
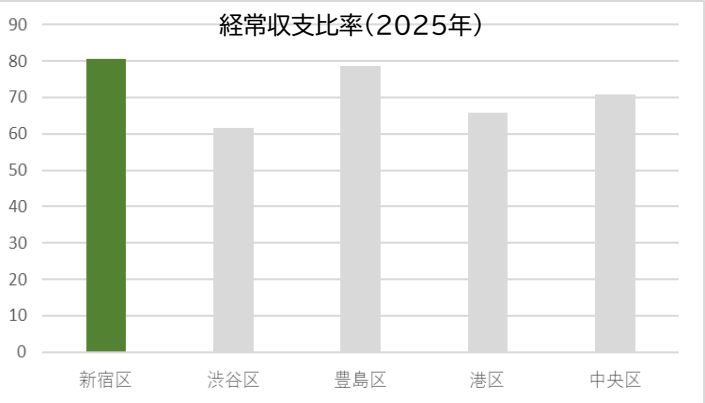
現状課題(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	経常収支比率が高い水準で推移し、財政運営の硬直化が進む中、受験者数の減少による人材の確保が一層困難となっており、限られた財源や人材を有効に活用しながら持続可能な行政運営を進めていくことが課題となっている。	資料6-2 社会経済環境変化に係る調査(P60)、資料6-3 基礎的データに係る調査(P31)、区データ(P67,P70)
専門・現場	財源確保や公民連携、デジタル技術・AIの活用を進めるとともに、行政評価を通じた効果検証やPDCAサイクルの強化が求められている。また、地方分権改革や自治権拡充に向けた取組を進めるとともに、職員の働きやすい環境を整備する必要がある。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P11)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P13,P14)、資料7-6 既設審議会からのご意見について(P18,P21)
生活者・個人	予算の使途や成果、重点施策を見える化し、区政を分かりやすく伝えることで区民の理解を深めることが課題である。また、職員対応のばらつきの解消や手続の簡素化を進め、サービスの質の向上を図ることが求められる。	資料7-1 区民意識調査要約版(P16,P17,P22)、資料7-2 区民アンケート_18歳以上(P15,P16,P31,P32,P34,P35)、資料7-4 インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P19,P20,P36,P37)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P37,P38,P40,P41)
職員	社会経済状況の変化や多様化・複雑化する行政ニーズに対応するため、専門性や政策形成能力を備えた人材の育成に加え、職員が意欲を持って能力を発揮できる職場環境づくりが求められている。	個別施策検証結果等(P35, P37)

少子高齢化の進行や社会保障関係経費の増大、労働力人口の減少などを背景に、自治体を取り巻く行財政環境は一層厳しさを増しています。加えて、区民ニーズや地域課題は多様化・複雑化しており、限られた財源・人材の中で、行政サービスの質を維持・向上していくことが課題となっています。さらに、デジタル化の進展や地方分権改革の動向を踏まえ、自治体には、社会の変化に柔軟に対応できる行財政運営がこれまで以上に求められています。

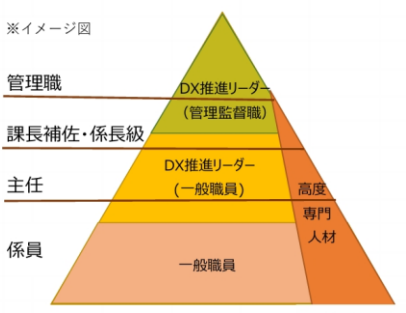
新宿区においても、昼夜間人口差や多様な国籍・背景を持つ住民の存在など、地域特性を踏まえた行政運営が必要です。また、経常収支比率が高い水準で推移し、財政運営の硬直化が進む中、受験者数の減少により人材の確保が一層困難となっており、限られた行政資源をより効果的・効率的に活用していくことが求められています。そのため、財源確保や公民連携、デジタル技術・AIの活用を進めるとともに、行政評価を通じた効果検証やPDCAサイクルの強化を図る必要があります。また、地方分権改革や自治権拡充に向けた取組を進め、自主性・自立性の高い行政運営を推進していくことも求められています。

あわせて、予算の使途や成果、重点施策を分かりやすく伝えることで区民の理解を深めるとともに、職員対応のばらつきの解消や手続の簡素化を進め、サービスの質の向上を図ることが重要です。さらに、変化する行政課題に的確に対応するため、DXに関する基礎的な知識や政策形成能力を備えた職員の育成を進めるとともに、職員の専門性向上や組織力の強化、働きやすい職場環境の整備を進めていく必要があります。



【必要となるDX人材】

- DX推進リーダー（管理監督職）**
職場の意識改革・体制づくり
DX推進のプロジェクト管理
- DX推進リーダー（一般職員）**
区民ニーズ・現場の課題をDXの視点から対応検討
ICTを活用した業務・システムの企画・実装
簡易な仕組みは自ら構築・導入
- 高度専門人材**
各所属の取り組みを専門知識・ノウハウでサポート
DX推進を支える仕組み・システムを提供



【個別施策 2】 持続可能な行財政運営



施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	財政基盤の強化や行政運営の効率化を図るとともに、デジタル技術・AIの活用や公民連携を進めることで、社会環境の変化に柔軟に対応できる持続可能な行財政運営を実現していくことが重要である。	資料6ー2 社会経済環境変化に係る調査(P60)、資料6ー3 基礎的データに係る調査(P31)、各課根拠資料(P60,P67)
専門・現場	公民連携やデジタル技術・AIの活用を進めるとともに、行政評価を通じた効果検証とPDCAサイクルの強化を図る必要がある。また、地方分権改革や自治権拡充に向けた取組を進めるとともに、職員が能力を十分に発揮できる働きやすい職場環境を整備することが重要である。	資料6ー1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P11)、資料7ー5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P13, P14,P20)、資料7ー6 既設審議会からのご意見について(P18,P21)
生活者・個人	取組内容や成果を分かりやすく発信し、区民の理解を深めることが重要である。あわせて、窓口対応の質の向上や職員研修の充実を進め、区民サービスの向上につなげる必要がある。	資料7ー1 区民意識調査要約版(P26)、資料7ー2 区民アンケート_18歳以上(P18,P19,P20,P31,P32,P34,P35)、資料7ー4 インターネットアンケート(非在住・在勤者)(P36,P37,P39)、資料7ー7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P37,P38,P41)
職員	DX人材育成や能力開発を推進するとともに、エンゲージメント向上やキャリア形成支援を通じて、職員が働きがいを持って活躍できる組織づくりを進めることが重要である。	個別施策検証結果等(P37)

●全体の方向性(案)

限られた行政資源を有効に活用し、行政評価による進行管理とPDCAサイクルの強化、公民連携の推進、デジタル技術・AIの活用による業務改革を通じて、効果的・効率的で持続可能な行財政運営を進めます。あわせて、自治基本条例の認知度向上や、地方分権改革、自治権拡充、自治のまちの推進に向けた取組を進めるとともに、職員の能力開発、キャリア形成支援、働きやすい職場づくりを一体的に推進し、組織力の強化と区民サービスの向上を図ります。

●個別の方向性(案)

●安定した財政基盤の確立

- ・納付案内などの外部委託の活用や財産調査時のシステム利用により、区税と国民健康保険料の適正な徴収を進め、負担の公平性を図りながら収入の確保に努めます。
- ・区税や国民健康保険料、介護保険料、後期高齢者医療保険等について、滞納整理部門間における情報共有や連携強化のための体制を確立し、収入の確保に努めます。

●行政評価制度の推進

- ・行政評価により施策及び事業の適切な進行管理を行い、評価結果を事業の見直しや予算編成に反映することで、PDCAサイクルの強化を図ります。また、効果的・効率的な行財政運営と区政の透明性向上につなげるとともに、成果の見える化や説明責任の強化を進めます。

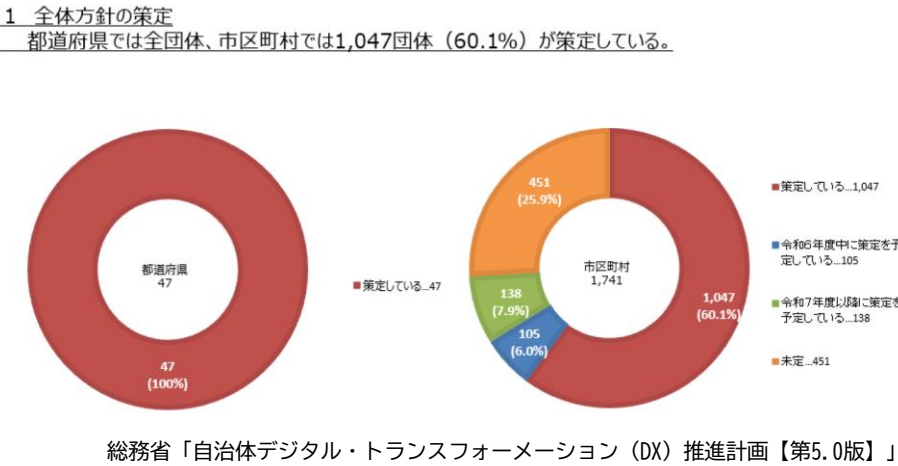
●公民連携(民間活用)の推進

- ・民間活力の活用を進めるため、公民連携に関する相談窓口や民間提案制度等を活用するとともに、職員の公民連携に関する理解促進を図ります。
- ・提案募集型ネーミングライツ制度を活用し、区有施設への導入を推進することで、新たな財源を確保するとともに、民間事業者の柔軟な発想や専門性を生かし、施設等の魅力向上や地域活性化を図ります。

●ICTの利活用による効果的・効率的な業務の推進

- ・デジタル化の進展を踏まえ、他自治体の取組も参考にしながら、デジタル技術やAIを利活用できる環境の整備を進めます。
- ・基幹業務システム基盤の安定運用を継続するとともに、システム間の円滑なデータ連携を進めることで、窓口運用の効率化と区民サービスの向上を図ります。
- ・基幹ネットワーク機器等のインフラや、電子申請サービス等に係るシステム、ネットワーク、サーバ等を適切に運用し、安定した行政サービスの提供を支えます。

自治体DXを推進するための全体方針の策定状況



【個別施策 2】 持続可能な行財政運営

施策の方向性(案)

●個別の方向性(案)

●効果的・効率的な区政運営に向けた取組

- ・デジタル技術やAIの利活用を通じて業務の方法や手法、執行体制の見直しなどを図り、業務の効率化や経費の削減に取り組みます。
- ・人材や予算などの限られた行政資源を効果的・効率的に活用し、良質な区民サービスの提供と安定した財政基盤の確立を両立することで、将来にわたって持続可能な行財政運営を推進します。
- ・デジタル技術やAIを活用し、窓口やオンラインサービスにおけるUI/UX(利用者にとって分かりやすく使いやすいデザイン)改善や地域社会のデジタル化を推進することで、行政サービスの利便性向上を図ります。

●地方分権の推進

- ・地方分権改革関連法や有識者会議等の動向を注視し、基礎自治体への権限移譲や義務付け・枠付けの見直し等に関する検討状況を把握したうえで、国や東京都への要望提出や提案募集方式等の機会を活用し、特別区長会を通じて提案・意見を発信します。
- ・都区制度改革については、関係部署との情報交換を図りながら、必要に応じて要望・意見を発信するとともに、自治権の拡充に向けた取組を進めます。

●自治のまちの推進

- ・「新宿区自治基本条例」の理念を踏まえ、自治のまち新宿の実現に向けて更なる自治の推進を図るとともに、条例の認知度向上に向けて引き続き区民への周知を図ります。

●職員のキャリア開発による組織力強化の推進

- ・DX人材育成方針に基づき、全職員がDXに関する基本的な知識を身につけ、システムやデジタルツールを効果的に活用できるようにするとともに、各所属においてDXを推進できる人材を育成します。
- ・目標管理型人事考課制度を効果的に活用し、適性や能力に応じた配置管理や評価結果を踏まえた昇給・昇任を行うことで、職員の育成と意欲向上を図り、昇任意欲の醸成につなげます。
- ・eラーニングや資格取得支援制度を活用し、職員の能力開発と意欲向上を促進するとともに、多様化する区民ニーズに的確に対応できる人材を育成します。また、職員自らが目指すキャリアを実現できるよう、人事制度の見直しや相談体制の充実、各種研修を進めます。
- ・特別区長会調査研究機構等の仕組みを活用し、職員が主体的に政策課題の調査・研究を行い、その成果を区政に反映することで、政策形成能力の向上と組織力の強化につなげます。

●職員のエンゲージメント向上による『働きやすい職場づくり』の推進

- ・職員のエンゲージメント調査を定期的の実施し、経年変化を確認しながら、組織改善や職員のエンゲージメント向上に向けた取組を進めます。
- ・調査結果に基づく改善策を実施することで、職員の働きがいや意欲、組織への愛着を高めるとともに、業務の生産性や質の向上、働きやすい職場環境の実現、人材の定着につなげます。



東京都「GovTech東京統合年次報告2025」
(東京アプリの将来像)



(集合研修とeラーニングのイメージ)



(有志による「職員エンゲージメント向上PT」の様子)

【個別施策 3】 公共施設マネジメントの推進



目指す姿(案)

将来にわたって公共施設の必要な機能や安全性が確保されるとともに、区民が安心して公共サービスを利用できています。財政負担との均衡を図りながら、時代の変化や区民ニーズに応じた施設配置や機能の最適化が実現しています。また、持続可能な公共サービスを支える施設基盤が確立されています。



現状課題(案)

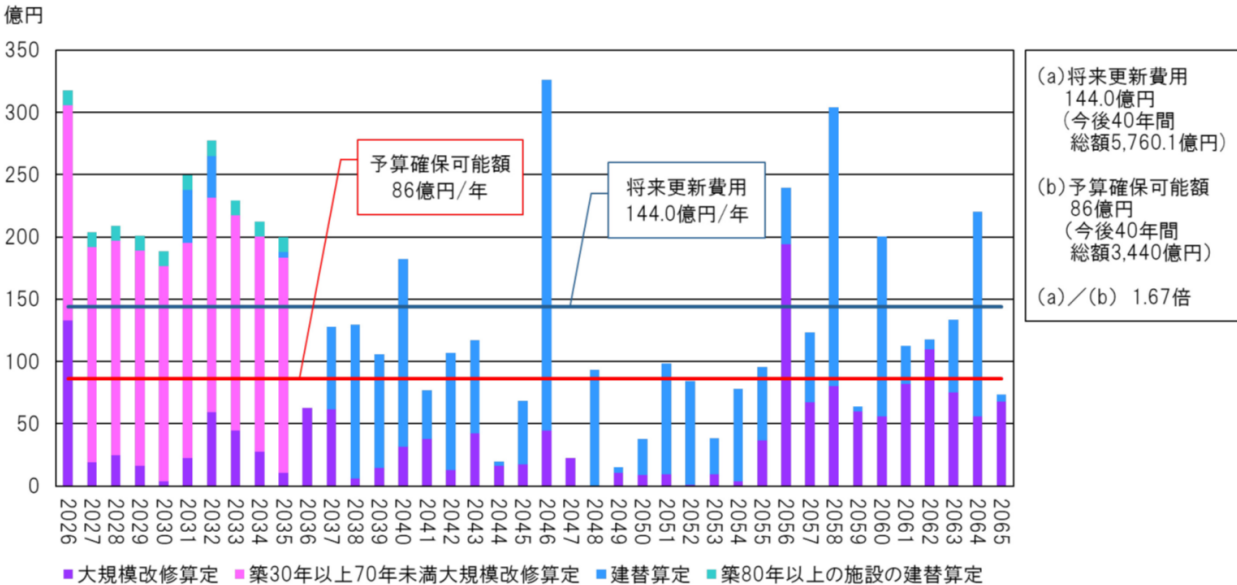
視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	施設の老朽化が進行中、建設資材価格の高騰など社会経済情勢が大きく変化しており、限られた人材と財源の下で、施設の維持管理や更新、長寿命化などに計画的かつ効果的に取り組むことが求められている。	資料6ー2 社会経済環境変化に係る調査(P55)、区データ(P68)
専門・現場	公共施設の老朽化が進行中、計画的な施設の更新などに取り組む必要があるほか、品質管理体制の強化や区民参加を取り入れた施設マネジメントが求められている。	資料6ー1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P11)、資料7ー5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P14)、資料7ー6 既設審議会からのご意見について(P13)
生活者・個人	公共施設が充実しているという意見がある一方、施設の老朽化や利用状況の偏り、施設やサービスに関する周知不足、利用予約や利用環境の改善が課題となっている。	資料7ー3 区民アンケート 18歳未満(P11,P13)、資料7ー7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P44,P45,P47,P48)
職員	予防保全による施設の長寿命化を進めるとともに、将来ニーズを見据えた機能転換や統廃合、民間活力の活用などを通じて持続可能な公共施設マネジメントを推進することが求められている。	個別施策検証結果等(P35,P38)

公共施設の老朽化が進み、多くの施設が更新や改修の時期を迎えています。また、建設資材価格の高騰や厳しい財政状況の中、すべての施設を同じ規模や機能で維持していくことは難しくなっており、人口構造の変化による将来的な施設ニーズも見据えながら、施設のあり方を検討していくことが求められています。

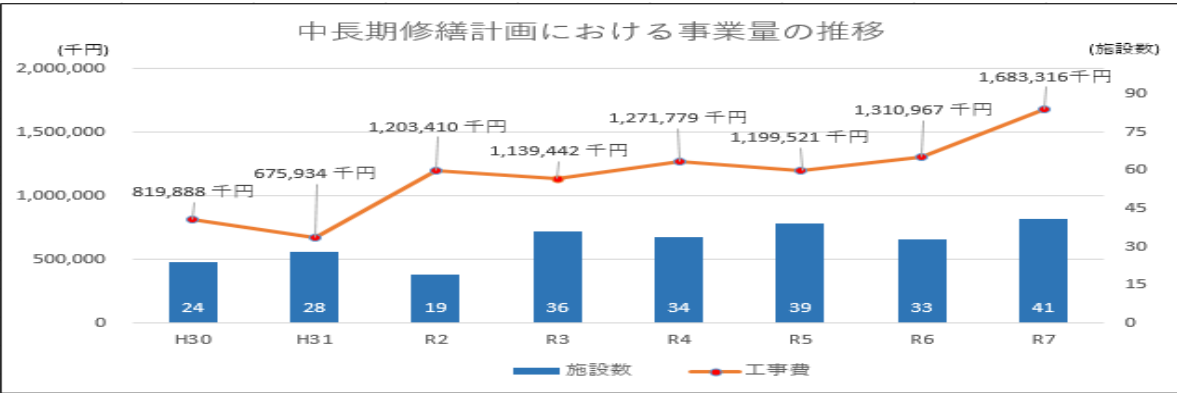
新宿区においても、区民生活を支える公共施設の老朽化が進み、改修や更新の必要性が高まっています。区民アンケートの結果などでは、公共施設のアクセス性や施設数に対して評価する意見がある一方、施設の老朽化や利用状況の偏り、施設やサービスに関する周知不足、利用予約や利用環境の改善などが課題として挙げられています。

こうした状況を踏まえ、予防保全による施設の長寿命化を進めるとともに、将来ニーズを見据えた機能転換や統廃合、民間活力の活用などを通じて、持続可能な公共施設マネジメントを推進していく必要があります。また、工事現場におけるリスク管理や施工管理を徹底し、品質管理体制を強化するとともに、区民参加を取り入れた施設マネジメントに取り組み、施設の安全性の確保と区民サービスの維持・向上を図ることが重要です。

(図表1 区有施設の将来更新費用の試算結果)



(図表2 中長期修繕計画における事業量の推移)



【中長期修繕計画における事業量の推移】

・中長期修繕計画の対象となる施設維持に欠かせない設備等(防水・外壁、受変電設備、昇降機、空調設備、給排水設備等)の修繕に要する工事費は、施設の老朽化に伴う修繕需要の増加等により、令和2年度以降増加傾向にあります。工事費の縮減や事業量の平準化に取り組んでいますが、近年は建設資材価格や人件費の上昇も加わり、事業費は増加しています。

【出所:各年度の行政評価(計画事業「区有施設等の長寿命化(中長期修繕計画に基づく施設の維持保全)」)データをもとに作成】

【個別施策 3】 公共施設マネジメントの推進

施策の方向性(案)

視点	ポイント	出所
俯瞰・客観	公共施設の老朽化が進行する中、限られた人材と財源の下で、施設の維持管理や更新、長寿命化などに計画的かつ効果的に取り組むことが重要である。	資料6-2_社会経済環境変化に係る調査(P55)、区データ(P68)
専門・現場	施設の長寿命化のために予防保全型の修繕計画を進めるとともに、工事現場におけるリスク管理や施工管理体制の強化を図るとともに、区民参加を取り入れた施設マネジメントに取り組むことが重要である。	資料6-1② 基本構想等検証アドバイザーからの意見(P11)、資料7-5 町会・自治会・地区協議会からのご意見について(P14)、資料7-6 既設審議会からのご意見について(P13)
生活者・個人	公共施設に関する情報発信を充実させるとともに、利用者ニーズを踏まえた施設の利便性向上や利用環境の改善を進めることが重要である。	資料7-3 区民アンケート_18歳未満(P11,P13)、資料7-7 新宿区区民討議会報告書(速報版)(P44,P45,P47,P48)
職員	予防保全による施設の長寿命化を進めるとともに、将来ニーズを見据えた機能転換や統廃合、民間活力の活用などを通じて持続可能な施設マネジメントを推進していくことが重要である。	個別施策検証結果等(P35,P38)

●全体の方向性(案)

将来にわたり安全な施設利用の確保と持続可能な公共サービスを提供するため、予防保全による施設の長寿命化を進めるとともに、将来ニーズを見据えた機能転換や統廃合、民間活力の活用などを通じて、公共サービスの質の維持・向上と財政負担の縮減の両立を図ります。

●個別の方向性(案)

●資産(建築物)の長寿命化

- ・定期点検の結果や修繕履歴を基に施設の老朽状況を把握し、工事費の縮減や平準化を図ります。
- ・将来ニーズの変化が見込まれる施設については、必要最小限の修繕にとどめるなどの工夫を行い、経費の縮減を図りながら、計画的な長寿命化を進めます。

●施設の有効活用／公共施設マネジメントの強化

- ・施設の維持管理や更新、長寿命化などに計画的かつ効果的に取り組むことで、財政の健全性確保に努めるとともに、公共サービスの質の維持・向上を図り、持続可能な施設運営につなげます。
- ・行政需要に的確に対応するため、将来ニーズを見据えながら施設の機能転換や統廃合、民間活力の活用などを進めることで、限られた資産を有効に活用し、必要な公共サービスの最適化につなげます。
- ・統廃合等により活用方法を見直す施設や用地については、貸付等による有効活用を進め、財源確保と公共サービスを支える基盤の強化につなげます。
- ・施設や提供サービスに関する区民への情報発信を積極的に行うとともに、様々な機会を捉えて区民意見やニーズを把握しながら、公共サービスの質の維持・向上につなげます。



【令和7年開設の牛込保健センター等複合施設】



<外壁修繕工事>



<空調設備修繕工事>

(区有施設等の長寿命化の取組)

新宿区公共施設等総合管理計画（平成29年2月）

【基本理念】
次世代に負担を残さず、誰もが安全に、快適に利用できる公共サービスの提供と施設の管理を実現する
～「安全な施設利用の確保」、「公共サービスの質の維持・向上」、「財政の健全性」を同時に達成する～

【基本方針】
(1) 「施設」から「サービス」へ発想を切り替える
(2) 効果的・効率的な施設・インフラ等の管理を実現する
(3) 必要な施設・インフラ等を適切に維持する
(4) 計画の実現に向けてPDCAサイクルを実行する
※現在の基本理念と基本方針を継承しつつ、区有施設の現状やこれまでの取組を踏まえ、新たな基本構想と総合計画の策定にあわせて改定を予定しています。